

# PTSD の日本兵と

# 家族の思いと願い・大阪証言集会

日時 6月25日(日)

10:30~16:00(開場 10:00)

会場 PLP 会館(大阪市天満)

5階大会議室 資料代 500円

第1部 10:30~12:00 **講演**



PTSDの日本兵と家族の交流館

## 戦争の後遺症を抱えた元日本兵の家族の終わらない戦後

講師 中村 平:広島大学大学院教授

講師 北村 毅:大阪大学大学院教授

第2部 13:00~14:30 **「PTSD の日本兵の家族の証言」**

★アジア太平洋戦争から帰還した日本兵 830 万人の 2 割から 5 割にあたる 300 万人前後が PTSD を発症したと推定され、ある人はアルコールにおぼれ、家族に暴力をふるい、無気力から仕事に就けない元兵士が続出しました。家族は家の恥として心に閉じ込め、精神の苦しみを抱え、それが子から孫世代に連鎖して今も続いています。そうした家族が関西地域で史上初めて声を上げ体験をお話します。

第3部 14:45~16:00 **「PTSD の日本兵の家族交流会」**

★ここでは録画録音が禁止されプライバシーが守られます。

★参加者どうしが体験を語り合い交流します。

**主催: PTSD の日本兵と家族の思いと願い大阪証言集会実行委員会**

**後援** 神戸学生青年センター **賛同** 市民社会フォーラム あけび書房

設置理念に則ったピースおおさかを取り戻す会 Allen Peace Project

**問い合わせ先** 黒井秋夫 ☎ 08011213888



## PLP 会館

〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋 3 丁目 9-27

06-6351-5860

- ・大阪市営地下鉄堺筋線 扇町駅 4 番出口より徒歩 3 分
- ・JR 大阪環状線 天満駅改札口より南側へ徒歩 5 分
- ・駐車場はございません。ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。

アジア太平洋戦争における「日本軍兵士の PTSD」に関しては、戦後、問題になることも、話題にのぼることもありませんでした。「日本軍兵士の PTSD」を取り上げた教科書は存在せず、「日本軍兵士の PTSD」は事実上ないものとして歴史上無視されてきたのです。しかし、ベトナム戦争やイラク戦争に従軍した米軍兵士 20%～50%が PTSD を発症し、米国で大きな社会問題となりました。日本では、2018 年に NHK が「隠された日本兵のトラウマ・8002 人の病床日誌」を放映、同じ 2018 年に中村江里さんの「戦争とトラウマ～不可視化された日本兵の戦争神経症」が発刊され、日本社会にこの問題の認識が広がっています。

2018 年 1 月 17 日に「PTSD の復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」が発足し、2020 年 5 月に「PTSD の日本兵と家族の交流館」が開館しました。以降、「日本軍兵士の PTSD」という問題が多くのメディアに報道されています。

2022 年 8 月 7 日、「PTSD の日本兵と家族の思いと願い証言集会」を東京武蔵村山市市民会館で開催し、200 名を超える参加者で成功しました。吉田裕さん(東京大空襲・戦災資料センター館長)、中村平さん(広島大学大学院教授)、中村江里さん(広島大学大学院准教授)、北村毅さん(大阪大学大学院教授)に参加いただき、講演とメッセージを頂戴しました。また 10 社以上のメディアが、テレビ、新聞、機関誌等で取り上げ、この問題への関心と認識が、かつてない勢いで広がっています。証言集会実行委員会は、趣旨に賛同する人なら誰でも参加できる組織として運営しています。この活動を広げることが、「日本が 2 度と戦争をしない」という世論を作り、「誰もが安心して暮らせる平和な社会」に繋がると信じています。

アジア・太平洋戦争によって PTSD(心的外傷後ストレス障害)を負った旧日本兵の実態について、日本共産党の宮本徹議員は 15 日の衆院厚生労働委員会で、国による調査を求めました。**日本兵の PTSD が国会で取り上げられたのは初めて。**加藤勝信厚労相は、国として調査する考えを示しました。宮本議員は、「PTSD の復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」を 2018 年に立ち上げた黒井秋夫さんらの証言、研究者の資料などを紹介。千葉県国府台陸軍病院には、1 万人以上の日本兵が精神障害を発症し入院したが、治療が受けられず亡くなった人も多くいたと指摘。「戦争で心を傷つけられながら、理解されずに亡くなっていった。暴力が子や孫に連鎖していく。こんな悲惨なことがあるだろうか」と話しました。

加藤厚労相は「心に傷を負われた元兵士や家族の実態を語り継ぐということは、戦傷病者や家族が戦中戦後に体験した労苦を次の世代につないでいくためにも大事なことだ」と答弁。戦傷病者史料館「しょうけい館」において「兵士や家族による体験、専門家による研究の成果などを調査し、運営有識者会議の議論を行っていく」と答えました。「**2023 年 3 月 16 日しんぶん赤旗**」